

JET からの手紙

違いの彼方へ ～田舎で居場所を見つける～

兵庫県朝来市市民生活部人権推進課 国際交流員
Laëtitia Leneveu (レティシア・ルヌブ)

私は大学で日本語を3年間勉強し、国際交流議論を専攻したにも関わらず、フランスでしか仕事をしたことがありませんでした。JETプログラムを通じて日本で働けると聞いて、応募しました。何十人もの応募者の中から選んでいただき、兵庫県のほぼ中心に位置する田舎の街並みがある朝来（あさご）市に国際交流員（CIR）として配属されました。



朝来市と言えば絶景の「天空の城」竹田城跡

2017年に来日して、何年滞在するかを決めていませんでしたが、あっという間に6年が経ち、2023年の7月末にJETプログラムの活動が満期となります。そこでこの記事では、これまでを振り返って、自分が得たCIRとして活躍する秘訣を共有します。

プラスαを目指す

朝来市は2008年からフランス・バルビゾン村と友好交流を行っているため、フランス人CIRを採用することになりました。2人目のCIRとしての最初の役目は、数年間途絶えていたバルビゾン村と改めて連絡を取ることでした。

それを聞いた私は、連絡を取ることだけが目的ではな

く、朝来市とバルビゾン村との交流の促進という、より大きな目標を掲げ、それを達成できるように色々なことに取り組みました。定期的な電話会談を開催することをはじめ、10周年の記念事業・表敬訪問・学生交換など、バルビゾン村と協力して数年間にわたる計画を立てることができました。それまでの交流はメールや手紙でしか行っていませんでしたが、電話会談をした際に交流促進に対するお互いの意欲が明らかになり、顔を合わせることの大事さを感じました。

友好都市との交流以外は、朝来市で多文化共生を促進する活動にも取り組みました。市の広報誌で、フランスと日本の違いについてのコラム記事を書いたり、図書館でフランス語の読み聞かせを行ったり、市民にフランス文化を紹介するためのフランス語文化講座と親子フランス家庭料理教室を開催したりしました。

この活動を通じて、たくさんの人とのつながりや、今後の活動を応援してくれる人ができ、大変感謝しています。

スキルアップの心構え

CIRの仕事は色々なスキルを活かさないといけません。



コロナ禍で、オンラインでの読み聞かせイベントを子育てセンターとの共同企画により開催

外国語能力はもちろん必要ですが、それ以外にも私にとって初めて使うスキルがいくつかありました。講師の経験はなかったのですが、5年以上フランス語講座を行いました。上手に教えるためにオンラインでフランス語と英語教授法の研修を受けました。その他にも JET プログラム参加者を対象とした国際交流基金の日本語教授法研修を受け、自分の活動のために大変勉強になりました。

また、日本語のスキルアップに限らず、地域活動にも参加して自分の日本文化への理解を深めようと思いました。地域の日本語教室に参加して、来日している外国人に日本語の基礎を教えたり、伝統楽器に興味を持ち6年間お箏を習ったり、月1回の総菜教室で地域のおばあちゃんと日本の野菜の美味しい調理方法を学んだりしています。このようなさまざまな活動で、日本文化に触れながら地域住民とのつながりができました。



フランスの友好都市の祭り（ジャパンウィーク）でフランス人に和楽器体験をしてもらっている様子

この6年間で経験と知識を増やそうと努めて、翻訳・通訳研修をはじめ、JET プログラムから与えられた機会はすべて活用してきました。振り返ってみると、JET プログラム参加者としてのスキルアップをしっかりとすることが不可欠だと思います。なぜなら、スキルアップをすることで現在の仕事と将来の仕事に活かすことができるからです。

サードプレイス（第三の場所）を設ける

CIR はよく、「文化の架け橋」と言われています。外国人目線で日本と海外の自治体の交流を促進して、語学講座や異文化交流イベントなど、配属先の自治体の住民の方々に色々な国の文化に触れるチャンスを与えているからです。

私が数年間、朝来市民へ英語圏以外の外国に触れるきっかけを作ったことで、田舎に異文化理解を少しでも広めることができたと思っています。今後、後任に引き継ぐ業務の1つは、フランスの友好都市との学生交換で、地方の生徒たちがなかなか体験できないチャンスなので、継続できるように願っています。

2017年の夏の猛暑日に初めて訪れた朝来市に結局、6年間住んでいて、これからも住み続けたいと思います。山に囲まれている朝来市に対して愛着が湧き、ここで活躍し続けたいと決めました。



日本でよく見る高級フランス料理ではなく、フランス人が普段食べる料理を親子で楽しく作る「親子フランス家庭料理教室」の様子

JET プログラムの仲間たちに1つアドバイスを届けるとしたら、それは「個性を保ちながら社会の一員になろう」ということです。JET プログラム参加者の多様性は日本の自治体にとって貴重であり、地域のコミュニティに入ってその力を発揮すれば、お互いに素晴らしい経験になるはずです。

プロフィール



Laëtitia Leneveu (レティシア・ルヌブ)

フランス、ノルマンディ出身。ストラスブール大学日本語学科を卒業後、国際交流議論大学院でプロジェクト企画を専攻。フランスのコンサルティング会社で欧州連合のプロジェクト経営を1年担当したのち、2017年にJET プログラムに応募。兵庫県朝来市で国際交流員として6年間働き、2023年の夏から友人と設立したNPO法人で翻訳者・通訳・ツアーガイドなどとして同地域で活躍する予定。